

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 13 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/13 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	23.1	106.8 kPa abs	A系： 0.10 vol%
		給水系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.10 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.3 m <sup>3</sup> /h	36.6	4.86 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m <sup>3</sup> /h	34.6	0.26 kPa g	A系： 0.14 Vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.12 vol%

\*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H25/5/13 16:27 1、2号機原子炉への注水量の低下が確認されたため、以下の通り、注水量の調整を実施。

【1号機】給水系からの注水量を約 2.4 m<sup>3</sup>/h から約 2.5 m<sup>3</sup>/h に調整、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9 m<sup>3</sup>/h から約 2.0 m<sup>3</sup>/h に調整。

【2号機】給水系からの注水量を約 3.3 m<sup>3</sup>/h から約 3.5 m<sup>3</sup>/h に調整、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9 m<sup>3</sup>/h から約 2.0 m<sup>3</sup>/h に調整。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/13 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	18.0
2号機	循環冷却システム	運転中	18.8
3号機	循環冷却システム	運転中	16.5
4号機	循環冷却システム	運転中	25

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	5/7 9:50~5/13 9:24 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	4/24 17:08~5/13 9:47 移送実施

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系\*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

\*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

#### < 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/13 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56～ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A～C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

5/12 9:59 ソフトウェアの変更並びに一部機械部品の交換を行うため、多核種除去設備(ALPS)を停止。

#### < 5 . その他 >

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/5/4 3号機原子炉建屋上部ガレキ撤去工事で原子炉建屋上部オペフロ北側のガレキ撤去を行っていたところ、撤去ガレキを原子炉建屋西側に配置した高線量ガレキ運搬用トラック(無線式)に積載する際に、約540mSv/hの高線量率ガレキがあることを発見。そのため、5/4 13:45、当該高線量ガレキ運搬用トラック周辺を立入制限。当該ガレキは、3号機原子炉建屋南側にある高線量ガレキ仮置場へ移動。今後、5日程度の間、従来から行っている高線量率ガレキ運搬作業と同様に、高線量ガレキコンテナ運搬用トラック(無線式)にて、発電所免震重要棟北側にある固体廃棄物貯蔵庫に運搬する予定であり、運搬作業の際は放射線被ばくに注意して実施する予定。なお、作業員への影響ならびに今後のガレキ撤去作業への影響はない。また、モニタリングポスト指示値に有意な変動は確認されていない。

5/10 21:45 当該ガレキを高線量ガレキコンテナに収納、高線量ガレキコンテナ運搬用トラック(無線式)で運搬し、免震重要棟北側にある固体廃棄物貯蔵庫で保管。

・H25/5/9 9:44～ 6号機補機冷却系熱交換器(A)出入口弁点検に伴い、使用済燃料プール冷却系を停止(停止時プール水温度:15.8)し、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(原子炉側の冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール側の冷却)を交互に切り替えて冷却する運用を開始。

・H25/5/10 正門の火災警報装置に「多核種移送」の「火災試験不良」の警報が8:01頃、発報されたことから、8:06消防へ通報。8:07現場に到着し確認を行ったところ、発火や発煙などの異常がないことを確認。また、当該火災警報装置には、他にも「多核種電気品」、「体育館」、「環境管理棟」の「火災試験不良」の警報も発生していたことから現場を確認したが、異常は確認されなかった。なお、「多核種移送」、「多核種電気品」、「体育館」、「環境管理棟」とは感知エリア(建屋)の名称であり、「火災試験不良」は火災警報装置から送られる感知器の試験信号が正常に受信されない時などに発信される、不具合を示す警報である。本件について現場確認の結果、いずれも発火や発煙などの異常がないことから、火災ではないと当社として判断。

その後、現場の調査を行ったところ、警報除外状態としていた「多核種移送」、「多核種電気品」、「体育館」の火災警報回路を、5月9日の作業において誤って復帰状態としたため、火災報知器の回路試験(火災警報装置内にて定期的に自動で行われる試験)が行われた際に、火災試験不良の警報が発生したことが判明。また、「環境管理棟」の警報については、「多核種移送」、「多核種電気品」、「体育館」の表示データが誤って「環境管理棟」と表示される(表示データ入力誤り)ようになっていたため発生したことが判明。

・H25/5/14～17 各日日中6時間程度、2号機サブプレッションチェンバ内へ窒素ガスを5Nm<sup>3</sup>/hで封入し、各種関連パラメータの応答を確認する予定。

#### 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

##### < 拡散防止対策 >

5/11～12 地下貯水槽 No.1～3の漏えい検知孔内に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ戻す処置を実施。また地下貯水槽 No.2 ドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

##### < サンプルング実績 >

5/10 地下貯水槽 No.2 観測孔(2-1、2-2)のサンプルングを実施。全ベータは検出限界値未満を確認。

5/12 地下貯水槽 No.2 観測孔(2-5、2-6、地質調査孔)のサンプルングを実施。全ベータは検出限界値未満を確認。

5/10～12 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1～4、6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)についてサンプルングを実施。分析結果については、前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

\*5/10の分析の実施にあたり、ドレン孔 No.1、2の全ベータ核種の北東側と南西側のボトルを取り違えた可能性があったため、午後に採取したサンプルング水にて全ての再分析を実施。

以上